



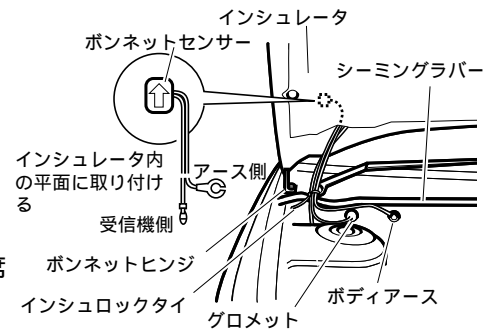
ボンネットセンサーの取付け

ボンネットセンサーはエンジンスタートによるエンジン始動で、ボンネットの開閉状態を検出するために必要です。取り付けることによりエンジンスタートの安全性が向上します。

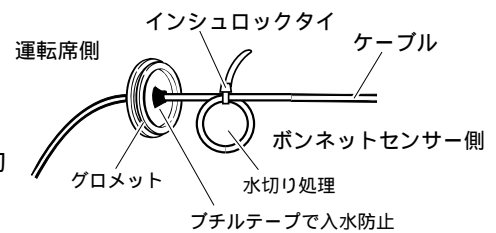
取付け手順

1. 車両のバッテリー端子(-)を外す
 2. ボンネットヒンジ付近の平面を選び、ボンネットセンサーを取付ける場所の油やほこり等を良く拭き取る
 3. センサー裏側のセパレータを剥がし、ボンネットセンサーを取付ける
(センサーの矢印をボンネットの開く方向に合わせます)
 4. アースケーブルを、車両アースに接続する
(ボンネット内のボディアースに接続するか、運転席内に導いてボディアースに接続してください)
 5. ケーブルの水切り処理をして、グロメット等を利用してケーブルを運転席内に導く
(グロメットに通した後は、ブチルテープで防水処理をしてください)
 6. ケーブルを受信機CN2の赤線に接続し、絶縁処理をする
(ES-89ExcelはCN2赤線のギボシに接続、他はCN2赤線にエレクトロタップで接続します)
 7. 車両のバッテリー端子(-)を接続する
 8. 機能の確認をする
 - 1) ボンネットを閉めてリセット処理、送信機でエンジンを始動。始動する OK
 - 2) ボンネットを開けて、送信機でエンジンを始動。始動しない OK
 - 3) ボンネットを閉めてリセット処理、送信機でエンジンを始動、その後ボンネットを開ける。エンジンが止まる OK
 9. リセット処理をする
 10. ケーブルを車両の可動部に触れたり、挟み込まれたり、垂れ下がらないようにインシュロックタイ等で結束処理をする
(シーミングラバーに挟み込まれないようにしてください)
- リセット処理=車両のキーを3秒以上「ON」にするか、送信機で「STOP」操作をする

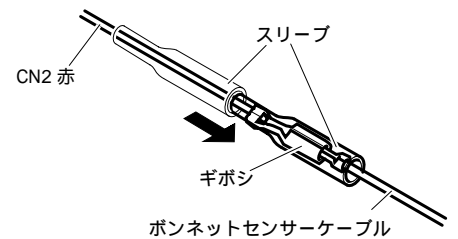
3 センサーの取付け例



5 水切り処理の例



6 絶縁処理

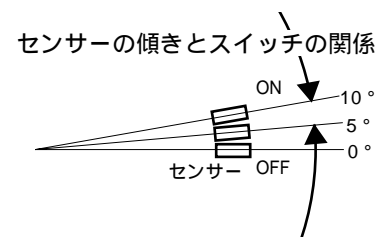


警告

配線ケーブルは車両の可動部に触れたり、挟み込まれたり(シーミングラバーに挟み込まれないようにする)垂れ下がらないようにインシュロックタイ等で結束処理をしてください。場合によっては断線、ショートが起こり、ボンネットセンサーが正常に動作せずに非常に危険です。

ヒント

検出角度は水平面に対して、開く場合は10°以上、閉じる場合は5°以下です。
センサーはできるだけボンネットフードのインシュレータ内に設置してください。
グロメットにケーブルを通すときは、ギボシを突き刺すように使うとうまく通ります。



梱包内容

ボンネットセンサー 1 エレクトロタップ(赤) 1 インシュロックタイ 2 ブチルテープ 1 取付説明書 1